

年 間 授 業 計 画

科 目 名	体 育	単位数	2 単位	学年・学科	1 学年 全学科	展 開	必 修
教科書名	保体 7 0 1（大修館書店） 現代高等保健体育			副教材名	－		
科目の目標	◇体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 （２）生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 （３）運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。						
	◇各運動種目をはじめ、体育理論や体づくり運動の実践を通して、次のとおり学習を進め。 （１）自己の基礎体力を把握し、体力を高めるトレーニングに積極的に取り組む。 （２）各運動種目の基礎技能を身につけ、様々な場面で応用できるよう取り組む。 （３）各運動種目におけるルールや特性を理解し、公正・協力・責任・参画などに対する意欲を高める。						
	◇健康と安全に十分留意し、けがのない活動を心がける。 ◇各運動種目を通して、運動の楽しさや喜びを味わうために、積極的に授業に参加するとともに周囲と協力して取り組む中から協調性を養う。						
月	単 元	予定 時数	具体的な学習内容	評価の観点			備考（評価項目）
				1	2	3	
4	◇オリエンテーション ◇体育理論 〈1 単元〉 スポーツの発祥と発展	3	▶ 教科の方針・授業内容・評価などについて説明 ▶ 01 スポーツの始まりと変遷 ▶ 02 文化としてのスポーツ ▶ 03 オリンピックとパラリンピックの意義	○	○	○	□知識理解テスト □レポート課題 □授業への参加・取り組み状況 □ペアワーク・グループワーク
5	◇体づくり運動	7	▶ 体ほぐし運動、体力を高める運動、新体力テスト	○		○	□実技スキルテスト
6	◇陸上競技Ⅰ 〈短距離走・長距離走・投てき〉	5	▶ 50m走、100m走、1000m走、ハンドボール投げ	○	○	○	□記録測定 □実技発表会
	◇球技Ⅰ	7					□知識理解テスト
7	男子〈サッカー〉		▶ キック、シュート、ドリブル、リフティング、ルール、ゲーム	○	○	○	□学習ノート
	女子〈バスケットボール〉		▶ パス、ドリブル、シュート、ルール、ゲーム				□レポート課題
8	◇陸上競技Ⅱ〈長距離走〉	1 1	▶ 1 0 分間走、ロード走、マラソン大会	○		○	□授業への参加・取り組み状況
9	◇球技Ⅱ	5					□ペアワーク・グループワーク
	男子〈バスケットボール〉		▶ パス、ドリブル、シュート、ルール、ゲーム	○	○	○	
10	女子〈ソフトボール〉		▶ キャッチボール、バッティング、守備、ルール、ゲーム				
	◇器械運動Ⅰ		▶ 前転系、後転系、倒立回転系				
11	男子〈マット〉	6		○	○	○	
12	女子〈マット〉	5					
1	◇武道Ⅰ 男子〈柔道〉	5	▶ 特性について、柔道着の着方とたたみ方、礼法 ▶ 基本動作（組み方、進退動作、体さばき、受け身）、立ち技、抑え技	○	○	○	
2	◇ダンスⅠ 女子〈創作ダンス〉	6	▶ 規定音楽による規定演技＋一部分創作	○	○	○	
3	◇スキーⅠ	18	▶ ブルークボーゲン、シュテムターン、パラレルターン	○	○	○	
1	◇体育理論 〈1 単元〉 スポーツの発祥と発展	3	▶ 04 スポーツが経済に及ぼす効果 ▶ 05 スポーツの高潔さとドーピング ▶ 06 スポーツと環境	○	○	○	□知識理解テスト □レポート課題 □授業への参加・取り組み状況 □ペアワーク・グループワーク
2							
3							
評価方法	（１）評価の観点については、下表に示したとおりとする。 （２）各単元（種目）におけるスキルテスト、測定した記録、学習ノート、レポート、学習活動への取り組み状況や態度などを通して評価する。						
評価の観点	観点	趣旨					
	1. 知識・技能	◇運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。					
	2. 思考・判断・表現	◇生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。					
	3. 主体的に学習に取り組む態度	◇生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。					
評価基準	1. 知識・技能	A：各運動の多様性や体力の必要性を理解し、運動の合理的・計画的な実践するための技能を身に付けることが十分にできている。 B：各運動の多様性や体力の必要性を理解し、運動の合理的・計画的な実践するための技能を身に付けることが概ねできている。 C：各運動の多様性や体力の必要性を理解し、運動の合理的・計画的な実践するための技能を身に付けることができていない。					
	2. 思考・判断・表現	A：各運動の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることが十分にできている。 B：各運動の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることが概ねできている。 C：各運動の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができていない。					
	3. 主体的に学習に取り組む態度	A：各運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとする態度があり、健康・安全を確保することが十分にできている。 B：各運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとする態度があり、健康・安全を確保することが概ねできている。 C：各運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとする態度が不十分で、健康・安全を確保することができていない。					